

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0490300027		
法人名	有限会社 サンテック		
事業所名	グループホーム 清水沢あさひ園	ユニット名	1階
所在地	宮城県塩竈市清水沢3丁目11-31		
自己評価作成日	平成 22 年 3 月 5 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝、基本理念の唱和と職員が交代でつくった介護の重点の唱和を行ってから、ケアにあたっております。 ・夜間想定で地域住民参加の避難訓練を行っております。 ・地域住民参加でバーベキュー大会を行っております。
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成 22 年 3 月 26 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>管理者は、看護師のケアマネージャーで個別ケアを推進し、排泄の自立に積極的でおむつからリハビリパンツや布パンツに穿きかえるなどの入居者がいる。地域との付き合いも積極的で、町内会に加入し、地域の一員として入居者と共に地域の清掃活動や盆踊り等に参加している。家族会も二ヶ月に1回開催と活発である。災害に備えスプリンクラーの工事を予定、非常階段の増設も検討している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム清水沢あさひ園)「ユニット名 ユニット名 1階

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	園内に掲示し、毎朝の申し送りや唱和を行っております。また日々の取り組みのなかから、職員が交代で介護の重点を設定し毎月の全体会議で検討し合い、全職員で共有しております	事業所独自の理念に「地域の和」をかかげ、地域福祉の拠点となるように地域の輪を広げ実践活動している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市民清掃に参加したり、町内会の盆踊りやお祭りの神輿に立ち寄って頂いたり、園で行うバーベキュー大会や、年2回の避難訓練に参加していただいておりますが、もっと交流がもてるよう努めていけるよう検討しております。	町内会に加入し、地域の一員として近所の人々と気楽に挨拶を交わす暮らしを進めている。20年度は職員だけで参加していた市民清掃に現在は入居者と共に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会会員となり、入居者とともに地域清掃に参加したり、近隣の住民や営推進会議でアドバイスをいただいたり今後に向けて努力しております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、園の活動状況、家族会での意見や月1回の避難訓練の報告をして色々な意見、提案を頂きサービス向上に努めております	年6回開催し、地域包括支援センターの市職員が毎回参加している。毎月の避難訓練の様子を報告し、スプリンクラーの設置や非常階段の増設等建設的な提案がなされ、前向きに検討されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	何かあれば、すぐに連絡頂いたり、報告、連絡、相談してアドバイスをいただいております。運営推進会議にも毎回出席いただき、園の状況を伝えアドバイスを頂いております。また毎月の地域ケア会議に参加し、情報交換をしております。	市主催の「地域ケア会議」に参加している。生活保護者の診察に各病院ごと書類が必要なこと等の指導や徘徊ネットワークの紹介、事例研究や検討会議、情報の提供等があり日々のケアに活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の外部研修を受け、職場での学習会で全職員に周知し、意識しながらケアに取り組んでおります。施錠せず身体拘束をしないケアに努めております。	日中は玄関に鍵を掛けず自由に入出りでき、一人で外出しているとガソリンスタンドや近所の方々が連絡してくれる。階段やエレベーター利用の場合は禁止せず職員が付き添うようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加し、参加した職員が後日、全職員酸化の学習会を行い、いつでも注意しあえる環境づくりをして虐待防止に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中に、成年後見人制度利用された方があり学習したり、話し合う機会があったが後見人と相談しながら支援しました。今後も学習する機会をつくっていきたいです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約は契約書、重要説明事項をもとに、本人含め家族と話し合い理解、納得を得てから行っております。改定の際は、家族会で説明、話し合いを行い理解、納得を頂けるようにしております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や訪問時には聴けるように働きかけ、家族会での意見、要望があった時はすぐに話し合い、検討し次回の会議で報告しております。また苦情受付、意見箱を設置し運営に反映できるよう努めております。	家族会は2ヶ月に1回開催されている。苦情相談窓口の第三者委員には運営推進員の民生委員(1名)に依頼して家族会で説明しているが、重要事項説明書等にも連絡先を明記して頂きたい。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議で意見、要望、提案を聞き、管理者会議に提案し検討できる。個々にも、意見を聞いてもらえる環境にあります。	毎月職員会議が開かれ、職員の提案で休憩時間が取れたり、夏祭り等も提案が活かされている。申し送りやメモを活用し、家族等からの連絡洩れのないように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社労士を交えて就業規則の検討、改定され社労士から全職員に説明された。また個々の評価され各自が向上心を持って働けるよう職場環境、条件の整備に努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりの力量に合った外部研修に参加できるようになっており、新入職員にはカリキュラムに添ったトレーニングができるよう、研修期間を設けております。研修会に参加した職員は職場での内部学習に繋げております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会、地域ケアマネネットワーク、地域ケア会議に参加し、交流、情報交換、学習会に参加しサービスの質の向上に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査記録や居宅ケアマネ、家族様からの情報をもとに、一緒に過ごす時間を多くして、ゆっくり、焦らず寄り添って過ごす中で信頼関係をつくり安心感を持っていただけるよう努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の訪問時などに、お茶をのみながら出来るだけ話して頂ける働きかけ要望に耳を傾け、些細なことでも聞き入れていく姿勢を表し良い関係づくりができるよう努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その都度家族、上司に相談検討の上、他のサービス利用に繋げられるような支援を行えるよう努めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事を手伝ってもらったり、協力して頂いた時は、「ありがとうございます」の労いの言葉を忘れずに、和やかに暮らしております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、手紙で近況報告したり、状況により速、家族に連絡、相談し本人も交えて話しあえるようにして、ともに本人を支えていけるよう努めております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居の際は馴染みの家具、物を持ってきて頂いたり、通い慣れた病院、美容院、馴染みの場所に出かけられる機会をつくり、関係が途切れないよう努めております。	入居者の友人と行った馴染みの温泉や祭り等に、家族等と一緒に日帰りで行ったり、昔の散歩道やドライブコースに行き、関係性が途切れないように外出の支援もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人同志を把握して隣の席にしたり、難しい人の場合は職員が同席して茶話会などで間をとりもち、入居者同士が関わり合えるよう努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、入院されてる時は立ち寄って様子をうかがったり、町で家族とお会いした時なども相談されることもあります。今後も大事にしていきたいです。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメントツール情報から生活歴、暮らしの情報、心身の情報を把握し本人及び家族の希望を取り入れ、検討会議を開いて、なるべく本人本位の生活ができるように努めております。	担当者や家族、主治医等を交えて開く検討会議で入居者の思いや意向、希望等を考慮し、外出や買物、夜におやつ提供や眠い時は寝るなど思い等を実現できるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の実態調査、居宅ケアマネからの情報や、家族、知り合いの訪問時に情報収集し全職員で共有把握しております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りで個々の状況を把握して、朝のミーティングでその人に合った過ごし方を共有し、ケアにあたっております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、主治医の意見を求めながら、3カ月に1回と必要時に全職員でモニタリングを行い、計画を作成している	足にリンパ浮腫のある場合には足浴マッサージやラジオ体操、リハビリ体操、足を上げて休んでいただくなど、その人らしく生活できるように家族や職員等意見を出し合い計画を作成して家族に渡している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとり個別にケース記録、受診記録をつくり情報を共有し、プランに繋げています。また伝えきれない部分は申し送り帳を利用しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズ発生の際は、上司に相談しながら、柔軟なサービスに繋がられるよう努めてますが、シフト上難しい時もあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会、民生委員、消防署、タクシー会社、警察署、ボランティアの方々みなさんに支援していただき、安全で豊かな暮らしができるように努めております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向を大事にし、今迄のかかりつけ医との関係を崩さないような受診ができるよう、支援をしております。また通院が困難の方は往診をして頂き、安心した生活をしていただいております。	かかりつけ医の受診には、ホームでの生活の様子を記載した「本日までの様子」を持参して、適切な医療を受けられるようにしている。受診後の結果は受診記録に記載し共有してケアに当たっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日ごろの気づきや異変がある時は管理者(看護師)に相談し、処置や受診ができるよう支援しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時は介護サマリを提出し、3日に1回、もしくは1週間に1回は職員が面会し医療機関、家族と情報交換を行い退院に備えております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約書に明記し入居時から説明しております。また入院された方の家族にはその都度、話し合い方針を決めて共有しております。殆どの方が主病があるため急変時は即、受診できるようにしております。	「重度化した場合における(看取り)指針」を作成し、説明をして同意書を頂いている。医療機関との連携が確保できれば、ホームにおいて緩和ケアの介護技術を獲得した職員もおり、看取り介護で尊厳あるターミナルケアが可能である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の指導により、全職員参加救急救命講習を行い急変や事故発生時に備えております。またミーティング時に管理者の指導により、イメージトレーニングをしたり緊急時の指導をうけてます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回、近所の方にも参加して頂きながら入居者とともに火災、避難訓練を行っております。また1ヶ月に1回は夜間を想定しての避難訓練を入居者とともに行っております。」	2階の避難は消防の指導で、非常口からベランダの道路側で消防の来るのを待つようにしている。札幌の火災の教訓で、スプリンクラーの工事や非常階段を道路側に増設するよう検討している。	いつ災害が起るかもしれないので、スプリンクラーの工事や道路側への非常階段の増設は一早く設置して、安心して避難できるようにして頂きたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として敬い、声掛けには十分注意することを努めております。また介護の重点に取り上げ毎朝の申し送り時に唱和をおこない認識し、プライバシーを損ねない声掛けに努めております。	前回の外部評価で「職員の会話のトーンが高い」は、全体会議等で検討、是正に努めている。1～2階の音が聞こえるのは食堂脇が吹き抜けとなっているため、夜間等緊急時には即応体制が取れやすい利点もある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人の思いを大事にし、希望を伝えて頂けるよう、また自己決定ができるような雰囲気環境づくりに努めております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのその日の思い、体調に合わせて、見守りながらゆっくり、その人のペースで過ごして頂かるよう努めております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容室にいたり、衣服は本人の好みの物を着て頂いて、時々お化粧品たり気分転換を図って頂いて、男性には声掛けしこまめに髭そりをして頂いております。訪問美容、訪問理容を利用できる支援も行っております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者全員と職員が同じテーブルで談笑しながらゆっくり召し上がって頂き、片づけは職員と一緒にさせて頂いております。	入居者の希望や嗜好を取り入れて、職員がメニューを作り、栄養士に毎月「サプリメント愛用者等の栄養のバランス」等チェックしてもらっている。お口の体操や口腔ケアを行い誤嚥防止に努め食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月1回栄養士の訪問があり、職員が作ったメニューから栄養指導を受けております。一人ひとりの食事摂取量、水分摂取量をチェック記載し、その人にあつた形態で召し上がって頂いております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方も口腔内をチェックさせて頂き、出来ない方は介助で口腔ケアをさせて頂いておりますが、訪問歯科医の指導を取り入れた口腔ケアをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し失禁がないよう時間をみて声掛けしたりで、オムツ使用の方がリハビリパンツになったケースもあります	排泄習慣を把握し、早めの声掛けを行いトイレに誘導し、排泄の自立に努めている。繊維質を多めにした食事や運動を行い、便秘予防にも努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜多めの食事したり、水分制限のない方には多めに摂って頂き、リハビリ体操に参加していただいたり、個々に応じて離床して頂けるように声掛けしております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	無理強いせず、1週間に2回以上は入って頂けるように一人ひとりにあったタイミングに声掛け、工夫をした支援をしています。	入居者の希望で毎日入浴可能である。入浴を拒む方には相性等を考慮して職員を交代したり、言葉かけを工夫したりして清潔を保持するよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	横になりたい時、昼寝をしたい時、時間を問わず、一人ひとりの生活習慣に添った支援をしています。夜間に安眠して頂けるよう職員が一人ひとりの関わりを多くとれるようにしております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容を個々にファイルし、参照しながら個々の配置箱に配置してダブルチェックを行った上、一人ひとりに合った服薬の支援を行い、症状の変化の確認に努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人その人の持っている力をいかして、家事を手伝っていただいたり、趣味、楽しみを大事にして歌をうたったり、お裁縫したり、時には歌謡祭、散歩にでかけたり気分転換ができるよう支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	暖かい日を見つけて、ドライブや買い物、外食に出かけたりしております。また花見、塩釜神社への参拝に行ったり、日帰り温泉旅行は家族の協力を頂きながら支援しております。	21年は新型インフルエンザの発生で、感染症予防のため外出を控えていたので、天気の良い日はできるだけ散歩等の外出支援をして頂きたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、お金の持つことの大切さを理解しております。どうしても手元に置いて置きたい方以外は事務所の方でお預かりして、買物の希望があった時は家族の了解を得た上で職員が購入できるような支援をしております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら手紙を書くことは難しいので書かれることはありませんが、家族への電話の希望があった時は、職員がつかないで直接話していただいたり、職員が代わりに伝えるような支援をしております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除をこまめに行い、季節感を感じていただけるように、季節にあった貼り絵をしたり、ひな人形を飾ったり工夫をしております。また暑すぎず寒すぎず居心地がよく過ごせるよう努めております。	食堂脇の共有空間は吹き抜けで、中央部に中庭があり自然の柔らかい日差しが入る工夫がされている。季節の変化がホーム内でも感じられる。表情豊かな写真が随所に飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ファミリールームや食堂で気のあった方同士それぞれ談笑したり、テレビの観賞したり過ごされていますが、一部の方には独りにならないよう職員が工夫をしながら支援しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に相談して馴染みのタンス、テーブル椅子飾りもの、趣味関係を持ってきて頂き、安心して過ごせるよう工夫しております。	各居室の入り口に持ち込みの暖簾がかかり、各自の居室が分かりやすくしてある。消防の指導で暖簾は1m以内に職員により手直しされている。将棋や書道等趣味に励む支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関から居室、園内バリアフリーにして、トイレなど分かり難い所には文字で記し提示し、ゴミ箱の位置を同じ場所にしたりして、衣類の整理、居室内をほうきで掃除される方も安全に自立した生活ができるよう見守った支援をしております。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0490300027		
法人名	有限会社 サンテック		
事業所名	グループホーム 清水沢あさひ園	ユニット名	2階
所在地	宮城県塩竈市清水沢3丁目11-31		
自己評価作成日	平成 22 年 3 月 5 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・365日の毎朝、基本理念の唱和を行い、職員交代でつくった介護の重点の唱和を行ってからケアにあたっております。 ・毎月1回、夜間想定で地域住民参加の避難訓練を行っております。 ・地域住民参加でバーベキュー大会を行っております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成 22 年 3 月 26 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>管理者は、看護師のケアマネージャーで個別ケアを推進し、排泄の自立に積極的でおむつからリハビリパンツや布パンツに穿きかえるなどの入居者がいる。地域との付き合いも積極的で、町内会に加入し、地域の一員として入居者と共に地域の清掃活動や盆踊り等に参加している。家族会も二ヶ月に1回開催と活発である。災害に備えスプリンクラーの工事を予定、非常階段の増設も検討している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム清水沢あさひ園)「ユニット名 2階 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に掲示し、毎朝の申し送りで唱和を行っております。また日々の取り組みの中から、職員が交代で介護の重点を設定し、理念を共有するよう取り組んでおります。	事業所独自の理念に「地域の和」をかかげ、地域福祉の拠点となるように地域の輪を広げ実践活動している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者とともに、市民一斉清掃に参加し、また盆踊りの見物に行ったり、お祭りのお神輿に立ち寄っていただいております。園行事のバーベキューの時などは近隣の方にも積極的に参加して頂いております。	町内会に加入し、地域の一員として近所の人々と気楽に挨拶を交わす暮らしを進めている。20年度は職員だけで参加していた市民清掃に現在は入居者と共に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣住民や運営推進会議でアドバイスを頂いたり、家族会での勉強会や地域勉強会の声掛けをおこなって今後に向け努力をしております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、利用状況や活動状況、避難訓練状況を報告し多種意見をいただきサービス向上に努めております。	年6回開催し、地域包括支援センターの市職員が毎回参加している。毎月の避難訓練の様子を報告し、スプリンクラーの設置や非常階段の増設等建設的な提案がなされ、前向きに検討されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	貸出資源の協力をいただいたり、入居者の相談を受けて頂き何かあれば即対応していただいております。運営推進会議には毎回参加していただき、意見アドバイスを頂いております。	市主催の「地域ケア会議」に参加している。生活保護者の診察に各病院ごと書類が必要なこと等の指導や徘徊ネットワークの紹介、事例研究や検討会議、情報の提供等があり日々のケアに活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	非施錠や拘束ゼロのケアを念頭に、を職員に周知してケアにあたっております。また外部研修参加、内部学習を行い職員の意識を高めるよう努めております。	日中は玄関に鍵を掛けず自由に入出りでき、一人で外出しているとガソリンスタンドや近所の方々が連絡してくれる。階段やエレベーター利用の場合は禁止せず職員が付き添うようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加した職員が、内部学習を通して周知する機会を設け、全職員が意識しながらケアに努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加したり、内部研修を行い理解する機会を設け、必要時に活用できるよう努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約は契約書、重要説明事項をもとに、本人含め家族と十分に話し合い説明を行い理解、納得を頂いてから行っております。また2週間のお試し期間を設けております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問時や家族会で気軽に話していただけるよう働きかけ、またユニット毎に苦情受付、意見箱を設置し運営に反映できるよう努めております。	家族会は2ヶ月に1回開催されている。苦情相談窓口の第三者委員には運営推進員の民生委員(1名)に依頼して家族会で説明しているが、重要事項説明書等にも連絡先を明記して頂きたい。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、フロアーミーティングなどで意見要望があった時は、管理者会議で提案し意見を活かせるように努めています。	毎月職員会議が開かれ、職員の提案で休憩時間が取れたり、夏祭り等も提案が活かされている。申し送りやメモを活用し、家族等からの連絡洩れのないように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社労士を交えて就業規則を検討、改定され社労士から全職員に説明された。また個々の評価が活かされ各自が向上心を持って働けるよう職場環境、条件の整備に努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりにあった研修会に参加できるようになって積極的に参加しております。研修会に参加した職員は内部学習に繋げております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議、ケアマネネットワーク、グループホーム連絡協議会に参加して勉強、サービスの向上に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査時に本人、家族から希望を良く聴いて相談しております。本人と家族のコミュニケーションを多くとり信頼関係が築けるよう努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	訪問時の会話の中から、要望、不安を聴き逃さないように努めております。また家族会にも働きかけ気軽に言ってもらえる環境作りに努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その都度、家族、上司に相談検討し納得の上、他のサービス利用に繋げられるような支援を行っております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、料理、洗濯物たたみなど、その人にあつた家事を職員と共にやって頂き、利用者から教えていただく事もあります。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の手紙で生活状況を報告したり、状況により即、連をし本人を含め話会えるように努めております。遠く在住の家族には密に電話連絡をとっております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの家具や仏壇を持ってきていただいたり、入居まえからの馴染みの美容室に行ったり、今まで付き合いのあつた友人、近所の方に気軽に立ち寄っていただいています。	入居者の友人と行った馴染みの温泉や祭り等に、家族等と一緒に日帰りで行ったり、昔の散歩道やドライブコースに行き、関係性が途切れないように外出の支援もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂で談笑したり、リビングでテレビの観賞されたり過ごされてます。意思疎通の困難な方には職員が関わりひとりに孤立しないような支援をしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も入院されてる時は立ち寄り、様子をうかがったり、相談があった時は対応しております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメントツールから生活歴、暮らしの情報、心身の情報を把握し本人および家族の希望を取り入れ検討会を開き、本人本位の暮らしができるよう努めております。	担当者や家族、主治医等を交えて開く検討会議で入居者の思いや意向、希望等を考慮し、外出や買物、夜におやつ提供や眠い時は寝るなど思い等を実現できるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式ツールからの情報や家族、友人、親戚の方からの情報収集し全職員で把握共有しております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の申し送りで個々の状況を把握し、ミーティングを行いその人にあった過ごし方を共有しケアにあたっております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、主治医の意見を求めながら3か月に1回、必要時にモニタリングを行っている。また毎月の全体会議でケア会議を行って介護計画に盛り込んでます。	足にリンパ浮腫のある場合には足浴マッサージやラジオ体操、リハビリ体操、足を上げて休んでいただくなど、その人らしく生活できるように家族や職員等意見を出し合い計画を作成して家族に渡している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとり個別にケース記録、受診記録を作成し情報を共有しプランに繋げています。また職員間の申し送り帳を利用して情報を共有しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズにより上司に相談しながら本人の希望に添った柔軟なサービスに繋がられるようつとめてます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会、民生委員、消防署、タクシー会社、警察署、ボランティアのみなさんの支援を頂きながら、安全で豊かな暮らしができるよう支援しております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医との関係を崩さないような受診ができるよう支援しております。また家族の受診介助が困難な時は職員が介助を行い結果を報告して連携をとっております。	かかりつけ医の受診には、ホームでの生活の様子を記載した「本日までの様子」を持参して、適切な医療を受けられるようにしている。受診後の結果は受診記録に記載し共有してケアに当たっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気になる時や、異変時は管理者(看護師)に報告相談し、指示を仰いでおります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は介護サマリーを提出し、1週間に1回程度は面会し家族、主治医と情報交換を行い退院に備えております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約書に明記し、入居時から説明し納得いただいております。入院された家族にはその都度話し合い、方針を共有しております。	「重度化した場合における(看取り)指針」を作成し、説明をして同意書を頂いている。医療機関との連携が確保できれば、ホームにおいて緩和ケアの介護技術を獲得した職員もおり、看取り介護で尊厳あるターミナルケアが可能である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の指導により心肺蘇生、AEDの使い方、急変時の対応の仕方の学習を全職員で受けております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回の火災訓練、災害時避難訓練を入居者と共に全職員が行っております。また夜間想定避難訓練を毎月行っております。	2階の避難は消防の指導で、非常口からベランダの道路側で消防の来るのを待つようにしている。札幌の火災の教訓で、スプリンクラーの工事や非常階段を道路側に増設するよう検討している。	いつ災害が起るかもしれないので、スプリンクラーの工事や道路側への非常階段の増設は一早く設置して、安心して避難できるようにして頂きたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎日の介護の重点にとり上げ、遠くからの声がけは行わず、近くでの声がけに努めております。一人ひとりの気持ち、言葉を否定せず受け入れられるよう心がけております。	前回の外部評価で「職員の会話のトーンが高い」は、全体会議等で検討、是正に努めている。1～2階の音が聞こえるのは食堂脇が吹き抜けとなっているため、夜間等緊急時には即応体制が取れやすい利点もある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話が複雑にならないように、傾聴を多くし言葉で表せない時には本人の表情、動きから読み取るようにしております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に合わせ、その人にあわせたケアを行うように心がけております。シフト上、希望に沿った支援ができない時もあるので、希望に沿えるよう努めていきたいです。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服は好みの物を選んでもらったり、職員が手伝ってお化粧したり、馴染みの美容室に通えるような支援をしております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	包丁を使える方には、野菜を切って頂いたり、おやつを作っていたり、職員とで談笑しながら召し上がり、片づけは職員と共に行っていただいております。	入居者の希望や嗜好を取り入れて、職員がメニューを作り、栄養士に毎月「サプリメント愛用者等の栄養のバランス」等チェックしてもらっている。お口の体操や口腔ケアを行い誤嚥防止に努め食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月、栄養士の訪問があり職員が作ったメニューからバランスの指導を受けております。食事摂取量のチェック、水分摂取量のチェック表を個々につくりチェック、検討をしております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	3食後には必ず歯磨きをしていただいております。難しいかたは介助で行い、デンタルスポンジでの介助もあります。また義歯使用の方は、就寝前に預かって消毒をしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用しながら、一人ひとりの排泄パターンを把握し、その人にあった時間に声がけ誘導をしております。	排泄習慣を把握し、早めの声がけを行いトイレに誘導し、排泄の自立に努めている。繊維質を多めにした食事や運動を行い、便秘予防にも努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量のチェックや野菜多めのメニューを召しあがって頂くようにしております。排泄チェック表で管理しながら個々に応じた支援に取り組んでおります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1週間に2回以上は入浴できるよう努めております。また一人ひとりの好きな時間に入浴ができるよう支援しています。	入居者の希望で毎日入浴可能である。入浴を拒む方には相性等を考慮して職員を交代したり、言葉かけを工夫したりして清潔を保持するよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	好きな時に横になったり、昼寝ができるような支援をしております。夜間に安眠できるように昼間に職員の関わりを多くしたり、眠られない方には、添い寝をしております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容を個々にファイルし、いつでも確認できるようにしております。服薬配置を行い、別の職員がダブルチェックをした上で服薬して頂いています。その上で症状の変化の確認に努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの持っている力を活かして、食事の準備、片づけ等やって頂いています。日帰り温泉に行ったり、買い物に行ったり、演芸を觀賞に行ったりして気分転換ができるよう支援していますが、もっと外出の機会を多くつくることができると努めます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	近所の店に個々に買い物に行ったり、天気の良い日は散歩に出かけたりできる支援をしています。日帰り温泉旅行は地域の方、家族に協力を頂きながら支援しております。	21年は新型インフルエンザの発生で、感染症予防のため外出を控えていたので、天気の良い日はできるだけ散歩等の外出支援をして頂きたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、お金を持つことの大切さを理解した上で本人、家族と相談し事務所のほうでお預かりしております。買い物の希望があった時は家族と相談の上、職員が購入したり一緒に買い物に出かけます。所持されてる方は職員が同行しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいとの希望があった時は、職員が繋いで直接話してもらえるような支援しております。職員が代わりに伝えたりもしております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	2階居室、フロアがバリアフリーで安全に動けるようになって、臭気や空気がよどまないよう換気をこまめに行うよう意識しております。居室や食堂に湿温計を設置し、適切に管理しております。季節感をあじわせるよう	食堂脇の共有空間は吹き抜けで、中央部に中庭があり自然の柔らかい日差しが入る工夫がされている。季節の変化がホーム内でも感じられる。表情豊かな写真が随所に飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあう方同士がリビング、食堂で思い思いに過ごされてますが、輪に入り難い方には職員が関わって過ごせるような支援をします。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたタンスや椅子、布団などを持ってきていただき、リロケーションダメージが少ない生活をして頂けるよう、家族と相談しながら支援しております。	各居室の入り口に持ち込みの暖簾がかかり、各自の居室が分かりやすくしてある。消防の指導で暖簾は1m以内に職員により手直しされている。将棋や書道等趣味に励む支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	文字が読める方のために文字で記したり、個々にあった工夫をして、安全に自立した生活が送れるよう支援しております。		